

済みません！先週まで中国に行っていたものですから、今月のお話はチョット遅刻してしまいました！

3月に入ったというのに今年の冬は雪も多く、寒さも例年に比べていつまでも氷点下の気温が続いています。インフルエンザも大流行で、未だにアチコチでゴホゴホと咳き込んでいる人を見かけます。皆さんの地方は如何でしょうか？

さて、今月は堆肥舎の話をしささせていただきます。
もう既に補助事業とかで作ってしまった方々も多いと思うのですが、まだこれからという人達もいらっしゃるでしょう？

堆肥舎を作るにあたっては、決して“ただ作ればいい”というものではなく、まず次のような事をしっかり考えてからにしましょうね！

だって、せっかく大事なお金をかけるわけですから、使いやすくて堆肥が作りやすいものが良いですからね！ましてや一回作っちゃったら、失敗したからといって、そう簡単に作り直すわけにはいきませんかでしょう？！

では、堆肥舎に求められる条件とはどんな事が考えられるでしょう？

イ：風雪に耐えられる建築強度

これは建物だから当然の事ですよ！チョットした台風なんかで簡単に壊れてしまったらお話になりませんしね！

但し、お金が少なくて済むように、必要最低限の強度が良いですよ。

補助事業とかで作ってある共同堆肥舎などでよく見かけるのですが、まるで市民体育館か近代工場のように、重量鉄骨で100年以上も持ちそうな物がありますが、私は堆肥舎なんかそんなに長持ちする必要はないと思いますよ。だって、きっとその時代になれば畜産の形態も今とは相当違っているでしょうし、もっと良い施設が安く出来るかも知れませんかでしょう？ 私は長くてもせいぜい20～30年も持つような強度で十分だと思いますよ。牛さんたちと違って直接的にお金を生む所ではないですから、堆肥舎には出来るだけお金かけたくありませんしね…。

ロ：大切な雨水対策

皆さんはどうして堆肥舎を作るのでしょうか？

“法律で野積み禁止になったからしょうがないじゃん！…”とか、“指導機関の人が作らなければダメだっていうから…”って答えた人は、なぜ法律でこのように決めたのかをもう一度よく考えてみましょうね！

この部屋の第2回目でも書きましたが、この法律はあくまでも畜産現場からの環境汚染を防ぐための一つの手段として定められたものです。

ですから、堆肥舎は野積み禁止だから作るのではなくて、良い堆肥を作るために屋根をかけるんですよ！良い堆肥を作るために水分は大切な要因だったでしょう！

忘れた人は第4，5回目の所を読み返して下さいね！

良い堆肥は畑に撒いても河川や地下水の汚染にはつながりませんから大丈夫！
よい堆肥を作るためには雨に当たらないように屋根をかけます。仕込みの時に雨で水分過多になったら発酵の立ち上がりが悪くなるのでしたね。でも台風とかで横雨が吹き込む事がありますでしょう？雨水は外に流れ出しても環境汚染になりませんから、さっさと堆肥舎の外に流し出しましょう！そのために堆肥舎の床面の傾斜はしっかりととりましょう！私は多少の障害物（ウンコの固まり）があっても流れるように3～5%位を薦めています。

あと、最初のコストはチョット高くなるかも知れませんが、屋根材は全面でなく

シマシマ構造でも良いのですが、採光出来るものが好ましいですよ。これは水分を低く保つ(乾燥する)と言う事と品温を高くする(特に冬場の発酵立ち上がりが良くなる)さらに日光で悪玉菌をやっつけるという色々の良い事があります。

このほか、作業性として床面が泥濘化しないようにコンクリートを打つ、機械が動きやすいように間口、高さを十分とる、という事も必要です。

でも、大切なお金をかけて作るわけですから、これだけではまだ足りませんよ！これから堆肥舎を建設しようと思っている人達に、私からの提言です。

堆肥舎に求められる条件をある程度イメージ出来たなら今度は...
堆肥舎での最終処理をどうするのか？をしっかりと考えておきましょう！

これはその堆肥舎で作った堆肥をどのような目的に使うのか？と言う事です。この部屋の第3回目でお話ししましたが、堆肥というのはリサイクル(戻し堆肥)あるいは水分調整用で使うものと、畑に還元するものとは作るための行程も違いますし、堆肥そのものの品質も異なってきます。また、畑に還元するものといっても、自分の畑に散布するものなのか、または袋詰めなどして販売するものなのか... によっても当然、堆肥の仕上げ具合も違ってきます。

何故って？だって、自分の畑で使うものだったら、きっちり分解さえしていれば出来上がりの見栄えなんて大して関係ありませんよね？見栄えが悪くたって誰も文句は言いませんからね。でも、これをお金を頂いて売るとなったら商品ですから、商品として恥ずかしくないようなところまで仕上げなくてはなりませんでしょう？商品という物は安定品質、安定供給が基本ですから。そのように仕上げるためには当然、作業工程が異なってきますからね。

ですから、まずは作った堆肥をどのように使うのかって事をしっかりと考えておきましょう！それによって堆肥舎構造や購入機械などが変わってきます。

何でもそうですが、目的がしっかりしていないと自分で“何をしようとしているのか？”が分からなくなっちゃいますからね！

最終処理をどうするかが決まったら、建設予定している敷地内での作業の流れ、堆肥舎での具体的な作業内容をイメージしてみましょ！

家畜を飼っている以上“ウンコ”は毎日出てきます。この“ウンコ”をどの様にしたら良い堆肥が作れるかは、第3回～第5回の所で詳しく書きましたが、覚えていますか？忘れた方はもう一度読み返して下さいね！

牛さん達は毎日牛舎で“ウンコ”をします。それを毎日、あるいは数日に一度は堆肥舎に運ばなくてはなりません。この時に堆肥舎が牛舎の近くにあるのと、遠く離れたところにあるのでは、その運搬作業にかかる時間が大きく異なってきます。

例えば運搬距離が一回運ぶのに片道10分違ったとすると往復で20分。それを毎日したとすると、一年間で7,300分。これは約122時間にもなります。3日に一度にしたとしても40時間以上の差になってしまいます。

たった一回運ぶだけの時間でですよ！大きいでしょう？

また、遠いと忙しい時期などついつい運ばずに溜めてしまいますよね。溜めておくとうなるか？そうでしたね！置いておくうちに“ウンコ”の山は腐敗菌群のすみかになって、発酵がうまく立ち上がりませんでしたね！

特に暑い夏場は何でも腐りやすいでしょう？こんな時に水分が多いままで放置する

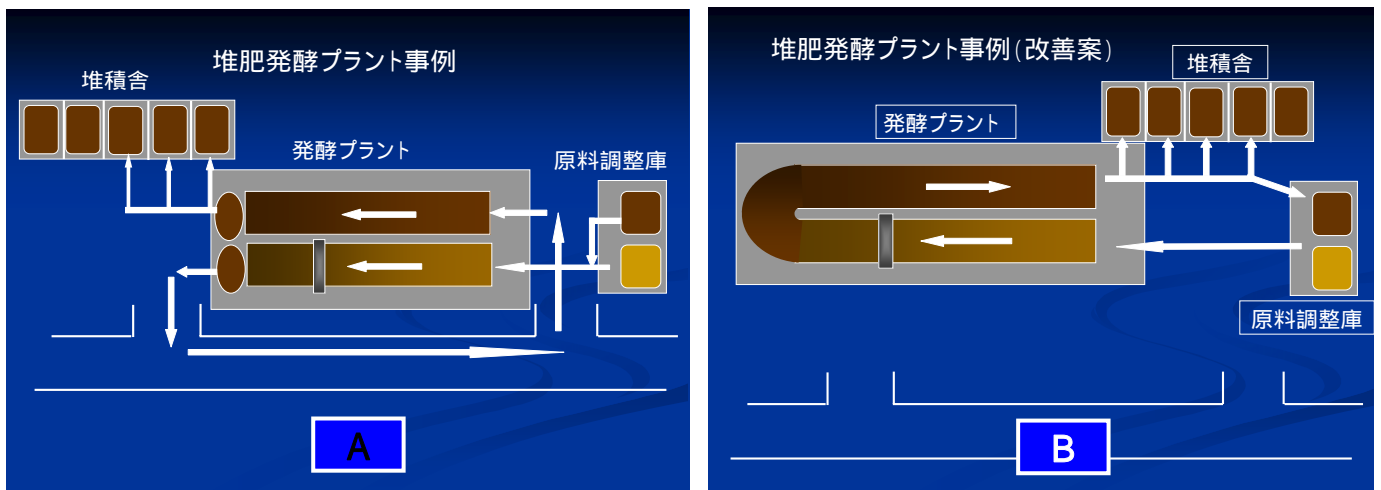
となおさらです。こうなると、せっせと堆肥舎に運んでもただ単に“ウンコ置き場”になってしまいます。

ですから、堆肥舎は出来るだけ牛舎から近いところに建設しましょう。もちろん、農場の事情によっては敷地が牛舎の近くに確保出来ない所もあるでしょう。その時は仕方ありません！思い切ってお酒を飲む時間など、他の時間を少しでもさいて時間を作りましょう！

但し、牛さんを世話する時間だけは決してさいてはいけませんよ！だって、お金を生んでくれるところですからね！

今度は“ウンコ”を堆肥舎に運び込んでからの作業です。どの様な機械を使って、どの様に動かなければいけないか？という事です。つまり機械の作業動線ですね。それによって堆肥舎周辺の作業スペースの幅や屋根の高さなどが決まってきます。

ここでは発酵プラントを利用している事例を紹介いたします。



上の図は3戸で共同利用の堆肥発酵プラントを使っている農場での事例です。左のA図が現状で、矢印で示しているのが堆肥製造過程の堆肥の動きです。発酵プラントの中を除いて、他の矢印のところは皆、人の動きが伴っています。見てわかるように矢印がとても複雑で、行ったり来たりしています。人の動き方、つまり作業動線がとても複雑で長く、作業効率が悪くなっていますのが解りますよね。

同じような敷地スペースでも、これをB図のように配置すると、作業動線がとても短くなり、作業効率がぐっと上がります。

ネッ！チョットした事だけで、随分違うでしょう？！

このように、既に出来上がってしまうとそう簡単に作り直すわけにはいきませんので、建設する前に敷地内での作業動線がどのようになるのかをしっかりイメージし、最も効率的な施設の配置、あるいは機械の選定をしましょうね！

ポケットに入るようなチョットしたお金ならばどうってことないのですが、堆肥舎のような施設になると、とても大きなお金になります。

ですから建設する前に、今まで上げてきた事などをしっかり考えてから、必要最小限のお金で作らしましょう！お金を使わないのも儲ける事と一緒にですからね。

最後にもう一度！まず、じっくり考えましょう！そして、大切なお金は最後に使いましょう！ 来月はもう少し堆肥舎のお話です。 つづく